

連載

もう、悩まない！ 『石原健の HOTEL LOVERS』

9

株式会社 グローバルエージェンツ
ホテル飲食事業部 ビジネスディベロップメント
マネージャー
ESTINATE HOTEL 那覇 マネージャー
濱田 佳菜氏



株式会社 グローバルエージェンツ
ホテル飲食事業部 ビジネスディベロップメント
マネージャー
ESTINATE HOTEL 那覇 マネージャー
濱田 佳菜氏

石原 濱田さんとの出会いは、新潟県の「ベルナティオ」でしたね。宿屋大学の近藤寛和代表にご紹介いただき、その後、渋谷のホテル開業や、横浜のホテルでのセミナーで一緒にさせていただきました。最初に、ホテルエディタになられたきっかけを教えてください。

濱田 高校生のときにファミレス、大学ではダイニングバーでアルバイトを行ない、人と話すことが好きで得意であると気が付き、将来的に接

客業でという考えも持ちました。そして大学時代に初の海外旅行で「サイパングランドホテル」に宿泊した際に、チャーミングなスタッフが多く好印象で、施設より人が思い出として残り、ホテルで働くことに興味を持ち意識したのです。

就職活動ではホテルと旅行会社をいくつか受けて、最初に幕張の「ホテルザ・マンハッタン」から内定をいただきました。地元が同じ千葉県船橋市なので縁も感じ、実家から通えることもあり、入社を決めました。

石原 ホテルエディタとしてのスタート、夢と現実はいかがでしたか。

濱田 最初はF&Bでオールデイダイニングに配属され、その後、宿泊部へ異動となりました。スタッフがアットホームで、社長をはじめ、よい方々が多く、メンター制度も含め体制が整っていました。厳しくも愛情を感じる指導、それがあったから今の自分があると思っています。

国外からのお客さまが多かったので、海外に興味を持つようになり、英語を極めたいと考え、3年半務めたホテルを退職してインターンシッ

第9回目のゲストは、(株)グローバルエージェンツのホテル飲食事業部 ビジネスディベロップメントマネージャーとESTINATE HOTEL 那覇のマネージャーを兼務する濱田佳菜氏。海外旅行やホテルアルバイトの経験がホテルエディタを目指すきっかけとなった濱田氏は、30歳を前にしたとき、新しい挑戦をしてみたいと考え、不動産事業を手掛ける同社に入社。これまでのホテルエディタ経験などを踏まえて、話を聞いた。

プで1年間グアムへ行くことを決断しました。

石原 そこからいくつかのステップアップをされていますが、その経緯を伺えますか。

濱田 グアムでは「アルパビーチクラブ」で、ゲストサービス以外にも予約手配やAGTの方々との接遇も経験ができました。帰国してからは浦安の「シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテル」に就職しました。ベルスタッフから始めて8カ月が経過した頃に、オーストラリアからのお客さまと親しくなり、やはりもっと海外経験を積みたいという思いが強くなり、前出のシェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテルを退職。ワーキングホリデーで、オーストラリアのハミルトンアイランドにある「リーフビューホテル」でアジアマーケットのお客さまを対応する担当となりました。そこでは宿泊・飲食以外にもアクティビティを含めた全てのオペレーションをアレンジし、シルバーエビデンスを受賞したことが懐かしいです。

石原 それから現在の会社に入社さ



れたんですね。

濱田 ワーキングホリデーから帰国して次の仕事を考えた際に、当時29歳で、30代になる前に違った業務にもチャレンジしてみたいと思い、ホテル業界に進出しようとしていた不動産会社である弊社に就職しました。2014年11月に渋谷の本社に入社しましたが、15年8月開業予定「ESTINATE HOTEL 那覇」のオープニングスタッフとして、不動産と二足の草鞋を履きました。不動産部門では覚えることも多く、ホテル事業の方は直前の7月からやっと沖縄の現地に入ることができ、約30名のスタッフを束ねて悪戦苦闘の日々でしたが、過去の経験を活かしながら貴重な体験も数多くできました。

それを踏まえて、次なるプロジェクトであった19年7月開業予定の「THE LIVELY 福岡」では、18年4月のキックオフから携わり、東京の根津のプロジェクトとの掛け持ちも行ないながら、19年2月に福岡に引越してオープンまでやり遂げました。その後は20年3月に沖縄に拠点を戻し、現在に至っております。

石原 ご自身のブランド力の向上について、常に気を付けていることやポリシーはありますか。

濱田 タフでいることと、常に楽しむことを忘れないが基本です。ストレスが溜まったときは、海に行きダイビングをする、美味しい料理とお酒を好きな仲間達と楽しむ。そしてモチベーションを維持するためにも、たまに、まとまった休みを取り旅に出掛けています。海外には30回以上行っていますが、アジアが中心でアメリカ本土とヨーロッパに行ったことがないので、次回は訪ねてみたいです。

石原 スタッフとのコミュニケーションについて注意していることは何でしょうか。



株式会社ホスピタリティデザイン 横浜
代表取締役
石原 健

Profile > 桜美林大学経済学部卒業。日本ホテルスクール卒業。ホテル産業経営塾卒塾生(第一期生)。ホテル センチュリー ハイアット勤務後、1989年、ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテルの開業準備室に第1期生として入社。国内外からのVIP対応等で、4度にわたる皇室接遇担当の栄誉も授かる。ウェスティンホテル仙台を経て、2014年、(株)ホスピタリティデザイン 横浜を設立し、代表取締役。厚生労働省事業検討会委員、ホスピタリティ教育研究会 会長、HSN 会顧問、産業能率大学兼任教員など、宿泊・サービス業界団体や学校、企業などで活躍中。

濱田 日々の営業に追われ、周りのスタッフ達のことを深く見られない時期があった際に、仕事を楽しくないと言われたことがあり、マネジメントとしての立ち位置や、タスクについて考え直しました。チームワーク作りでは、相手に興味を持つ、シンクロする、よく聴くことと、些細なことでも見過ごさないことを大事にしています。

石原 これからの若いホテルエディタへの思い、伝えたいことは何でしょうか。

濱田 ホテルは働く場所としても、サービスだけではなく、とても面白くて魅力的な場所です。ブランドやオペレーションスタイルの多様化やホテルの定義も進化し、ホテルで働くことも、極めて幅が広く一生を通して活躍できると感じていることを伝えたいです。そう思える人を育てていきたいです。そして働き続ける人たちを応援していく所存です。

石原 濱田さん自身も未だ若く、これからが楽しみですが、今後のビジョンを聞かせてください。

濱田 一生ホテルに関わって生きていきたいです。そして、自分にしかできない発信や人との関わりを続けていきたい、ホテル産業をもっと盛んにしていく一助を担っていきたくと思っています。

